

かなお　もり
課題名 地域と連携した金尾山の森林づくり
～第 75 回全国植樹祭機運醸成の取組～

埼玉県寄居林業事務所 浅香 義広

1 課題を取り上げた背景

令和 7 年 5 月 25 日、第 75 回全国植樹祭が秩父ミューズパーク（埼玉県秩父市・小鹿野町）で天皇陛下御臨席のもと開催されました。埼玉県では昭和 34 年（1959 年）に寄居町金尾山で開催された全国植樹祭「第 10 回大会」以来、66 年ぶり 2 回目の開催となります。「第 10 回大会」で記念植樹されたヒノキとともにこの地に自生するヤマツツジを、地域住民で構成する「つつじ山保存会（以下「保存会」という。）」が大切に育ててきました。

第 75 回全国植樹祭の開催を機に、金尾山の現況をあらためて確認したところ、ヤマツツジ約 5 千株の 2 ~ 3 割にカビが発生し、高齢木を中心に樹勢の衰えが生じていました。また、地元から緑豊かに成長した金尾山を PR する看板の設置を求める声が聞かれたほか、入口の木製階段の腐朽も目立ち始め、歩行者の安全を確保することが課題となりました。

このような中、保存会がカビ対策を検討する一方、高齢化したヤマツツジの代わりとなる苗木（ヤマツツジ）を植栽したいと意見がありました。埼玉県では第 75 回全国植樹祭機運醸成を県内各所で取り組んでいたことが重なり、金尾山で植樹イベントを開催する動きが始まりました。

2 具体的な取組

令和 7 年 3 月の植樹イベント開催に向け、多くの地元住民に参加してもらうため、保存会の提案もあり、町長に御後援を依頼したところ、快く引き受けいただきました。その後、地域の各団体長及び小・中学校の PTA 役員の皆様に説明会を実施したところ、開催趣旨に御賛同を得ることができました。

植樹イベントでは、金尾山の森林が緑豊かに成長するまでの過程を参加者に説明したほか、2か月後に迫った第 75 回全国植樹祭にちなんだクイズを出して開催機運醸成に取り組みました。（写真 1）

植樹イベントと並行して、地元から要望があった全国植樹祭「第 10 回大会」開催地であることを PR する木製標柱を人通りの多い入口付近の道路に面した場所に設置し、併せて入口の木製階段も新しく交換しました。（写真 2）



写真 1 植樹イベント



写真 2 木製標柱と木製階段

3 取組の結果

植樹イベントには、未就学児から 15 歳以下の子供 14 名を含めた 60 名を超える参加がありました。参加者からは、森林づくりの大切さを学べたと感想が寄せられました。また、木製標柱を設置したことで金尾山が全国植樹祭「第 10 回大会」地であることを認知しやすくなったほか、新しい木製階段にしたことで歩行者の安全を確保することができました。

4 まとめ

今回のような保存会との活動など、地域の連携が引き続き森林づくりに不可欠な役割を果たします。第 75 回全国植樹祭において天皇陛下が御使用されたお種入れとおしぶり受けは金尾山のヒノキから製作されました。第 75 回全国植樹祭で金尾山のヒノキが活用されたことは、地域と連携して森林づくりが進められてきた結果であり、埼玉県ではこのように、充実した森林資源を活用する「活樹」の推進を図っていきます。